

県中教研 音楽部会だより

第 33 号

発行日 平成30年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 野上 治子
題 字 金山 泰仁 先生

現行学習指導要領に基づく指導を大切に

主任指導主事 丸山 明子

平成29年3月に公示された中学校の次期学習指導要領では、音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と規定し、教科の目標は「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。また、「音楽的な見方・考え方」を働かせた学習活動によって、その資質・能力の育成を目指すことと示されました。音楽科は来年度から新学習指導要領によることができるとされ、新しい内容を指導しなければならないと考えるところです。

しかし、文部科学省の臼井学教科調査官は、「音楽科は現行の延長線上で質を高めるものである。だからこそ、今の学習をしっかりと行ってほしい。」と話しておられました。平成33年度の全面実施に向け、まずは現行学習指導要領の内容を確実に指導することが大切になってきます。

研究大会では、黒部市と射水市の2校において、「生徒が学びを実感できる学習指導の工夫」に焦点を当てた授業が提案されました。私が参観した宇奈月中学校では、付けたい力や要となる【共通事項】を明確にし、鑑賞と創作を関連付けた題材構成が工夫された学習となっていました。授業では、生徒がグループの「秋の宇奈月」のイメージを基に、実際にキーボードで音を出したり、タブレットで確かめたりしながら反復や変化等を生かして、主体的、協働的に旋律を創作する活動が展開されていました。生徒が自分のイメージを基に、思いや意図をもって協働し、表現を創意工夫する学習活動となった素晴らしい実践でした。

現行学習指導要領の内容を一層充実させた表現や鑑賞の活動を通し、生徒が「今日の音楽は楽しかった」と思えるような授業の実践を、先生方には目指していただきたいと思います。

(東部教育事務所)

授業の質的改善の推進

部長 野上 治子

急速に進む社会の変化に伴い、学習指導要領が約10年ぶりに全面改訂され、平成30年度から移行期に入る。その中で、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を基軸とし、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指した「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業や学習過程等の質的改善が重視されている。

そこで、現行学習指導要領を踏まえた上で、これまでの授業や学習過程等を見直し、これからの音楽科教育に向けて授業改善を図ることが求められている。私は、改善の手がかりとして、生徒へのアンケートを実施している。生徒からの意見は貴重なものが多く、これまでの授業等を反省し、発想の転換を図るよい機会と捉え、教材・教具の開発や授業展開、授業形態の工夫を繰り返すよう努めてきた。その中から、「主体的・対話的で深い学び」につながるものを三つ紹介する。一つ目は、合唱のパート別練習中、生徒の発案で表現が難しい部分の練習用CDを作成したところ、思いや意図をもって主体的に歌う生徒が増えたことである。二つ目は、創作活動にコンピュータを活用したことで、生徒の意欲が高まり、他者と協調しながら新しい表現を生み出したり、音楽のよさや美しさを知覚・感受しながら作品を創作したりするようになったことである。創作作品の相互評価を繰り返し行い、その評価を次時の創作に生かす姿も見られた。三つ目は、オーケストラや雅楽の音色に興味のない生徒が、楽器の音色を鑑賞できるタブレットを用いてグループ学習を行った結果、徐々に音や音楽に耳を傾け、音楽の諸要素を知覚・感受しようとする意欲が高まったことである。

今後も笑顔や感動のある授業を目指して研鑽を積み、情報交換や研究授業等を活発にすることを通して、学習指導要領の内容を具現化できるよう、授業の質的改善を図る工夫を継続的に行っていくことが重要である。

(富・上滝中)

第61回 研究大会報告

【研究主題】音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養うにはどうすればよいか。
—生徒が学びを実感できる学習指導の工夫—

東部地区（黒・宇奈月中）

東部地区では、黒部市立宇奈月中学校にて、木村朋子教諭による「秋の宇奈月をイメージした旋律をつくろう」を題材とした2年生の授業が行われた。地元宇奈月の美しい風景から表現したいイメージを考え、そのイメージを生かした旋律となるよう、旋律の動きや構成を工夫しながら創作に取り組むという展開であった。

生徒は、前時までに個人で2小節の旋律を創作していた。本時では構成について学んだ後、グループ全員の旋律をつなぎ、旋律のつなぎ方や終わり方、反復の仕方を工夫して長い旋律を創作した。写真、ラミネートカード、ホワイトボード、キーボード、タブレット端末を効果的に用いており、考えを表したり記録したりする活動に多くの工夫が見られ大変参考になった。また、生徒が読譜・記譜の基礎的な力をしっかりと身に付けていることが学習活動をスムーズに行うための支えとなっており、基礎・基本の指導の重要性を改めて実感した。

部会協議①では、授業についての意見交換の後、「生徒が学びを実感できる学習指導の工夫」についてグループ協議を行った。各校で実践されている具体的な手立てについて情報交換をすることができ、大変有意義であった。部会協議②では「新学習指導要領における音楽科のポイント」について、東部教育事務所の丸山明子主任指導主事より講話をいただいた。新旧の学習指導要領の対比や変更点、指導計画作成上の配慮事項、学習評価の仕方等について、演習を交えて具体的に説明していただき、今後の指導の在り方についての理解が



深まった。全面実施に向けてさらに研修を重ね、準備を進めていく必要性を強く感じた。

島 香織（黒・桜井中）

西部地区（射・小杉南中）

西部地区大会は、射水市立小杉南中学校で竹内文恵教諭による1年生の合唱の授業が行われた。題材は「詩や旋律の特徴を生かした表現の工夫」で、教材曲「夢を追いかけて」を用い、「歌詞の内容や曲想を感じ取って、音楽表現を工夫しよう」を学習課題とし、個々の思いや意図を発表しながら、全体で歌唱表現を工夫していく内容であった。ワークシートは旋律の動きや強弱記号に着目しながら、歌詞の内容と関連付けて、自分の表現したい思いや意図を吹き出しの中に書き込んでいくもので、本時のねらいに焦点が当てられたものであった。また、初めの全体指導でパート練習の視点が与えられ、生徒は目的をもって練習に取り組んでいた。竹内教諭のエネルギー溢れる指導で生徒の表情や歌声がどんどん変化していき、生徒自身が学びの成果を実感できた1時間であった。

部会協議①では、生徒の思いや意図を実際の表現に生かしていくための指導の方法や、本時の評価について等、若い先生からの多くの質問に竹内教諭が丁寧に答え、和やかな雰囲気が進められた。西部教育事務所の扇谷孝代主任指導主事からは、振り返りでの生徒の反応を予想しておくことで、確かなゴールイメージをもって授業を仕組むことができると助言をいただいた。

部会協議②では、「これからの音楽科教育で大切にしたいこと—新学習指導要領を踏まえて—」と題して、信州大学教授 齊藤忠彦先生より講話をいただいた。音そのもの、また音楽の本質について再認識するよい機会となった。

高瀬 まり（南・吉江中）

第61回 夏期音楽教育研究の つどいに参加して

8月9日、10日の2日間に渡り、大阪府高槻市で行われた「夏期音楽教育研究のつどい」に参加する機会を得た。校種に関係なく、音楽教育・合唱指導に熱心な先生方が全国から集まっており、とても刺激の多い時間を過ごすことができた。

菊本るり子先生の講演では、教員生活から見出された授業の進め方や指導法について話を聞くことができた。その中で、「子供たちの限界値を低く見くびってはならない」という言葉がとても印象に残った。日頃から子供たちにたくさん質問をして、音楽について考えさせる経験や、できない子供たちへの支援を考えることが、子供たちの主体性や深い学びにつながることを改めて学ぶことができた。また、椿野慎仁先生の講演では、地声から歌声のアプローチ方法や合唱の指導法について教授いただき、先生が日頃実践しておられる練習法を参加者全員で試みた。とても分かりやすく、是非授業に取り入れたいと思う指導法が数多くあった。

今回の研究大会を通して、小学校で音楽教育に長く携わってこられた先生方の話には説得力があり、自分も授業への所属感を高め、成就感を味わわせることのできる魅力的な合唱指導のために研鑽していきたいと感じた。また、美しいものを美しいと感じる心やコミュニケーション力を育むことのできる音楽教育の重要性についても再認識することができた。

合唱に対する意識が高い本校の生徒に、今まで以上に歌うことの楽しさを感じさせ、声が出るメソッドを生徒たち自身に考えさせながら、体感を多く用いた「美しい声」の追究に努めていきたい。

加藤 恵 (黒・高志野中)

全日本音楽教育研究会 全国大会に参加して

中学校部会では四つの公開授業が行われ、私は2年の歌唱と鑑賞の授業を参観した。歌唱は「花の街」を主教材として、「作者の思いを理解し、曲にふさわしい表現の工夫をし歌う」を目標とした授業。楽譜からの気付きを伝え合い、共有するグループ活動を経て、表現の工夫を深める展開。一人一人が自分の言葉で伝え合うことで、考えを深め、主体的な音楽表現に取り組んでいた。

鑑賞は「オルティンドー」を主教材として、「音楽と人々との暮らしを関連させながら、曲のよさや美しさを感じ取って鑑賞する」を目標とした授業。音楽の特徴をグループで整理し紹介文を発表する活動を通して、音楽の特徴の相違性や共通性に気付き、鑑賞の学習を深めていた。次時には、音楽の特徴や感じたよさを紹介文にまとめ、スイス、モンゴルの現地住民に手紙を送るという。

全体会の指導講評では、臼井学教科調査官が「音楽科の存在意義としては『音楽の授業で学んだことが生徒自身の生活や社会を明るく豊かなものにし、自ら未来を切り開く力を付けること』がある」という話をされた。

記念演奏では、特別支援学校の生徒59名が「現代版組踊」の劇中曲「肝高の詩」を演奏した。沖縄に古くから伝わる伝統芸能と現代音楽、そしてダンスの融合にチャレンジしたもので、これからも沖縄（うちなー）の音楽を受け継いでいきたいという熱い心を肌で感じた。

今回の研究大会を通して、「ちむぐる（人の心に宿る、より深い思い）」を大切にし、これからも音楽と人との関わりや世代を越えて受け継がれてきた音楽文化を大切にすることを育みながら、生徒の可能性を伸ばしていきたいと強く感じた。

廣本 浩太 (砺・般若中)

フレッシュさんから

生徒と共に

新規採用教員として朝日中学校で働き始め、早1年が経とうとしています。新しいことの連続で、めまぐるしくも学びの多い充実した日々を重ねていくことができました。

合唱コンクールの指導では、練習当初、1年生の意欲がなかなか高まらず、苦労しました。歌声の小さな学級や、真面目に集中して練習に取り組めない学級もありました。しかし、パートリーダーに意欲をもたせたり、過去の合唱コンクールの映像を視聴したりするうちに、生徒たちが積極的に合唱に取り組むようになりました。その後も他の学級や他の学年の合唱を聴く機会を経て、本番間近には、私にアドバイスを求めてくるなど、よりよい合唱を目指して自分たちで話し合い、工夫する姿が見られるようになりました。生徒が生き生きと活動する姿を見ることができ、とてもうれしく思いました。その反面、授業では話を聞くときは静かに聞くなどの基本的なルールを守らせることに難しさを感じています。生徒の様子に応じて、楽しいだけでなく毅然とした言葉をかけることも必要です。生徒に「活動することの楽しさ」を感じさせると同時に、学習規律を正すことが、今の私の課題です。

私の周りには、頼りがいのある先輩の先生方がたくさんおられます。先生方はどんなに小さな悩みでも、しっかりと聞いて、アドバイスをしてくださいます。そして、生徒たちはとても純朴で素直です。私が授業の方法を改めると、生徒からは素直な反応が返ってきます。「生徒は自分を映す鏡」という言葉のとおり、頑張った分だけ返ってくる恵まれた環境があります。だからこそ、少しずつではありますが、私は「もっと生徒を知って、改善しよう」と頑張ることができそうです。

苦労したことが多かった分、授業でも行事でも、生徒と共に成長することの大切さや喜びをたくさん感じることができました。今後も生徒と向き合い、生徒と共に学び続ける教師でありたいです。

黒坂 翔子（下・朝日中）

生徒の成長を願って

「本気で生徒の成長を感じて授業をしていますか？」ある研修会の折に、指導助言の先生が言われた言葉です。今でも私の心に残っています。それまで、生徒と向き合い、精一杯に取り組んできたつもりでした。しかし、常にそうであったか、特に「生徒の成長」よりも自分本位の授業をしていたのではないかと、この言葉によって改めて振り返ることができました。

私は今、楽しく音楽を聴いて歌うだけではなく、生徒たちの実態を把握し、生徒たちに「身に付けさせたい力」は何かを明確にした授業を心がけています。経験も浅く、うまくいくことも少ないのですが、1学年の「魔王」の鑑賞の授業では、1学期から〔共通事項〕を学習の支えとした授業をしてきた成果が感じられました。最初に題名を明かさず、この曲はハッピーエンドなのか悲劇なのかと投げかけ、原語で聴かせてみました。生徒たちは真剣に聴き、「悲劇」であると答え、その根拠として、歌い手の声の音色や旋律、強弱、ピアノのリズムなどを挙げていました。次に配役を告げず、「子供」と「魔王」に分けて聴くと、「何か叫んでいる。それが次第に鬼気迫ってくるのは、旋律が徐々に高くなっているからだ。」「初めは猫なで声で最後にはどかーんと音が低くなった。」「何か言いたいことがあって、強く出た。」と、「子供」と「魔王」それぞれの歌い方の特徴を聴いて感じ取り、根拠を挙げて伝え合うことができました。最後に教科書を開き、初めて題名と日本語の歌詞を見た時には、生徒から歓声が上がりました。その瞬間、これまでの学習の成果、生徒の成長を生徒と共に実感できたように思いました。

この1年を振り返ると、いろいろな方に支えていただきました。これからも教科指導だけでなく、学級運営や部活動指導等において、生徒の成長を願い、本気で向き合える教師を目指して努力していきたいと思えます。

仁木加奈子（砺・庄川中）